

会報

国鉄闘争全国運動

国鉄分割・民営化反対！ 1047名解雇撤回！

141号
2022年2月18日

国鉄分割・民営化に反対し 1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動事務局
千葉市中央区要町2-8 DCC会館内
Tel 043-222-7207
nationwidemovement@yahoo.co.jp

「1987年2・16解雇通知を忘れない。必ずJRに責任を取らせる」

分割・民営化から35年 臨調・行革攻撃40年 2・13国鉄集会を開催

JR民営化大崩壊に立ち向かい労働運動の再生を



東京・曳舟文化センターで2月13日、国鉄闘争全国運動の主催で「国鉄分割・民営化で不当解雇から35年 臨調・行革攻撃40年2・13国鉄集会」が行われ、450人が集まった。札幌、関西、九州でも国鉄集会が開催された。司会を動労千葉の佐藤正和副委員長、自治労の仲間が担った。

曳舟文化センターに450人 勝利まで後一步 署名運動に全力を 動労千葉 ダイ改ストを宣言

開会あいさつを国鉄闘争全国運動呼びかけ人の伊藤晃さんが行い、「3労組を中心とする運動は、新自由主義と対決して着実に反撃し、社会そのものを取り戻す闘いのきつかけをつくりだしてきた。この運動に自信を持って」と、動労千葉の反合理化・運転保安闘争は、安全を守るといふ社会的要求に発して全住民の交通を守る運動に発展していることを指摘し、新自由主義と対決する労働運動が、社会を取り戻す闘いに深化する道筋を明らかにした。

責任を取らせる

羽廣憲さんと小玉忠憲さんは「解雇を通告された1987年2・16と解雇が強制された4・1を絶対に忘れることができない。JRに責任を取らせるまで闘いぬく」と表明した。

関生支部の決意

関西生コン支部の武谷新吾書記次長が寄せたメッセージを、「関生弾圧を許さない東京の会」の吉本伸幸事務局長が読み上げた。武谷さんは「現場でしっかりと闘うことで、その闘いを見た労働者が闘う労働組合の存在

3月ダイ改スト

動労千葉の関道利委員長が「JR民営化大崩壊と労働運動の再生」と題して集会基調を報告した。動労千葉は3月12日夕

3労組アピール

「11月労働者集会25年 3労組共同アピール(裏面に全文掲載)」を動労千葉の渡辺剛史書記長が読み上げ、続いて3月ダイヤ改定阻止に向けた動労千葉と動労水戸の現場から報告と決意が語られた。



1047名解雇撤回行政訴訟第8回 JRは34年一貫して不当労働行為を継続

東京地裁で2月18日、1047名解雇撤回・JR復帰・団交開催の行政訴訟の第8回裁判が行われた。前回裁判を大きく上回る結果で闘い抜いた(写真)。

中央労働委員会は、不当労働行為から1年以内の救済の申し立てが必要と除斥期間を主張している。だがJR設立委員会が不採用基準の策定に関与し、その採用候補者名簿に基づいて1047名を不採用にしたのだ。これは国鉄改革23条の規定によってJRにその責任が及び、JR各社には採用する義務が生じる。その義務を34年間、一貫して果たしていないことが不当労働行為な

歴史に残る裁判闘争が展開されつつある。署名運動を全力で展開し、あと一步の闘いに勝利しよう。次回の裁判は5月25日(水)午前11時から東京地裁527号法廷。

東京地裁宛て 行政訴訟署名 7367筆 (22年2月18日)

を知り、希望を見いだして結果する」25年を迎える11・6労働者集会の成功を目指して共に闘おう」と訴えた。

クーデター1年

動労神奈川の桑原副委員長によるカンパピールの後、国軍クーデターと闘う在日ビルマ市民労働組合が発言に立った。昨年2月1日のクーデター以降、1500人以上の人びとが殺されている過酷な弾圧と命がけで闘うミャンマーの人びと。日本政府による国軍への支援がミャンマー国民の命を奪っているという怒りの告発、そして日本国内で連日闘い続ける在日ミャンマーの青年労働者たちの訴えに会場からの大きな拍手が送られた。

JAM日本機械工業労組の山口弘宣委員長が、日本の労働者の責務として日本政府による国軍支援を何としても止めようと呼びかけた。

「JRに法的責任なし」とした最高裁判決は、「JRが不当労働行為を行った場合は別」との表現で解雇を正当化した。この前提が覆ったのだ。つまりJR側が採用候補者名簿の策定に関与していないこの前提が覆っているのだ。

歴史に残る裁判闘争が展開されつつある。署名運動を全力で展開し、あと一步の闘いに勝利しよう。次回の裁判は5月25日(水)午前11時から東京地裁527号法廷。

除雪が追いつかず JR北海道3500本運休

専門家「合理化で災害に対する体力が低下」

JR北海道で、記録的な大雪のため2月6〜12日に約3500本の列車が運休する事態が発生しました。全面復旧したのは8日後の14日でした。

暴風雪が原因の運休として、1996年1月の2日間、計約800本を大きく上回る最悪規模となりました。

JR北海道の島田社長は「降雪量が想定以上だった」「その



96年の大雪時は札幌〜小樽間の高速道路などが通行止めになる一方、鉄道は間引き運転で済んでいました。今回、道路については除雪が進み対応が改善されたのに、鉄道は「かなり後退してしまった」と語っています。

結果、被害を拡大することになりました。

*

JR東日本は、3月のダイヤ改で全職名廃止、業務融合を行うとしています。

一括センターを設置し、「乗務、駅、企画、草刈り、コンビニ出し等を通常の勤務指定で行わせる」という提案です。鉄道の安全を守ってきた専門的な技術・経験を「必要ない」かのように語られています。

深澤社長は「仕事、系統の壁だけでなく企業の壁も越えていく」と語っています。鉄道業務の全面的な外注化、分社化・転籍を進めようという狙いです。

しかし、どんな技術を使おうと、日々列車を運行し、安全を守っているのは現場労働者です。その現場労働者がないがしろにして鉄道の安全はありませぬ。それはJR北海道の現実が示しています。

会社の攻撃を止める力は現場からの声と行動です。3月ダイヤ改に反対の声をあげよう。



勝利まで後一步を運動に、

全国活動者交流会

2月13日、国鉄集会に先立ち曳舟文化センターで全国活動者交流会が行われた。「1047名解雇をめぐる裁判闘争の現局面と運動の課題」「11月労働者集会25年の成功へ」「職場から新自由主義と対決する労働運動の再生」の3つのテーマを議論した。17年ぶりにJR東日本を法廷に引きずり出す局面を迎え、斎藤JR設立委員長や設立委員会の不当労働行為が焦点になるところまで来た現局面について、「勝利まであと一歩」の決定的局面であること、国鉄闘争に心を寄せる人びとに伝えること、弁護団の奮闘と危機感に心える署名運動の展開について議論しました。

自治体労組で数百筆の署名を集めた教訓、地域の労組共闘における国鉄闘争の意義などが報告され、最高裁10万筆署名運動の記憶を喚起。また外注化との闘いや解雇撤回などの職場闘争も報告された。

11月労働者集会3労組共同アピール

私たち3労組が、「闘う労働組合の全国ネットワークをつくらう」と呼びかけて、初めて日比谷野外音楽堂で11月労働者集会を開催したのは1998年のことでした。それ以来、全国の仲間たちに支えられて一度も欠かすことなく開かれてきた11月集会が今年25年を迎えます。

今、関西地区生コン支部は労働組合活動を犯罪とし、89名もの組合員らを不当逮捕する戦後最大の大弾圧の渦中にあり、またJRの職場では「労組なき社会」をつくらうとする激しい攻撃が進んでいます。それでも私たちの闘う意志は少しも揺らいでいません。また11月集会は、イラク戦争をきっかけに、韓国・民主労総ソウル地域本部や鉄道労組ソウル地方本部、アメリカ、ドイツ、ブラジル、トルコ、イタリア、中国、台湾、フィリピン、ミャンマー等の労働者との画期的な国際連帯闘争、共同行動へと発展しました。

それは「蟻螂の斧」のごとき、小さな労働組合の大きな挑戦でした。しかし、労働運動がとどまらず後退する困難な状況下で、「労働運動の変革」という大テーマを掲げ、25年間継続してきた蓄積はけっして小さくはありません。

労働運動の再生はこの時代に求められている最先端の変革

時代は大きな岐路に立っています。あらためて全国の仲間たち、全世界の仲間たちにアピールを発し、労働運動の再生に向けた闘いを新たな段階に進めたいと決意しました。

11月集会は、国鉄分割・民営化攻撃によって日本に導入された新自由主義が、社会全体をのみ込もうとしている渦中で始まりました。それから25年、労働運動を破壊し、社会を蝕んで吹き荒れた新自由主義攻撃は、自らが生み出した矛盾によって崩壊しようとしています。すべてが限度と限界をこえ、怒りと悲鳴が社会の隅々に満ちています。出口を失った危機が戦争を生み出すところとしています。

私たちは訴えます。第一に、私たちは関生支部への大弾圧、政府・JR資本による「労組なき社会」化攻撃を粉砕するために全力を尽くして闘っています。それは労働者の権利・労働運動の未来をかけた闘いです。それは「戦争のできる国」をつくるための労組破壊攻撃です。連合は存立基盤を失って危機を深め、自民党に急接近するなど、ナショナルセンターとしての実質を放棄しようとしています。労働者自身の手で労働運動を再建する時がきました。闘う労働組合を甦らせるためにも、私たちは必ず関生弾圧を粉砕します。この闘いにぜひともご支援をお願いします。

第二に、新自由主義を終わらせなければなりません。日本の賃金水準は先進国中最低レベルに落ち込み、貧困が社会に蔓延しています。激しいインフレが始まりました。それが労働者の生活に、とくに非正規職、女性、子どもに悲劇的な結果をもたらすことは明らかです。「同一労働同一賃金など真つ赤なウソだったこと、最低賃金に同一化する総非正規職化攻撃だったこと」が

あらわになっています。民営化、外注のさらなる前進のために闘います。11月集会は、民主労総ソウル地域本部と共に「東京ソウル国際共同行動」として発展し、今日に至っています。全世界の労働者が燎原の炎のように新自由主義への攻撃を開始しています。アメリカでは社会の隅々で新労組が結成され、ストライキが激発し、韓国では民主労総が社会の変革をめざしてゼネストに立ち上がりました。ミャンマーでは国軍クーデターに対する命がけの抵抗が続いています。私たちも同じ時代を生きています。

私たちは11月6日、東京・日比谷野外音楽堂で「労働者の団結した力で新自由主義を終わらせよう！ 闘う労働組合を甦らせよう！ 改憲・戦争阻止！1万人大行進」を呼びかけます。ぜひとも多くの皆様の賛同と参加をお願いします。

全国各地に実行委員会、賛同人・賛同団体会議を立ち上げて下さい。共に討議し、様々な行動を組織し、変革に向けた計画をつくりあげたいのです。変革は、突然奇跡のように起こるものではなく、時には何世代にもわたる努力によって起きるものです。私たちはその新たな一歩を踏み出します。多くの仲間たちがこの闘いに加わって下さることを願っています。これまでなら不可能だと思われたことも可能性を帯びて動き出す時代です。労働運動の再生は、この時代に求められている最先端の変革です。私たちこそ社会の主人公です。共に闘いましょう。

2022年2月13日

- 日時 11月6日(日) 正午
- 場所 東京・日比谷野外音楽堂
- 事務局 千葉市中央区要町2-18 D C会館 TEL043(222)72007
- 名称 11・6全国労働者総決起集会
- 改憲・戦争阻止1万人大行進
- 合同/国鉄千葉動力車労働組合
- 生コン支部/全国金属機械労働組合港
- 全日本建設運輸連帯労働組合関西地区
- 外 立ち上らなければなりません。「外への侵略戦争」と「内への階級戦争」は一つの攻撃です。全国の仲間たちに訴えます。あらゆる職場・地域から草の根の闘いを作り出そう。全世界の仲間たちに訴えます。東アジアにおける戦争を止めるために、私たちに連帯の力を貸して下さい。
- 第四に、労働運動の不可欠の課題として、私たちは労働者の国際連帯闘争